

平成28年度沖縄県吹奏楽祭・第63回NHK杯放送コンテスト

6月11日、沖縄市民会館大ホールで平成28年度沖縄県吹奏楽祭が行われました。本吹奏楽祭はコンクール形式ではなく県内の小・中・高等学校の吹奏楽部及び一般の参加者が一堂に会し、2日間にわたりその演奏を披露するものです。

本校吹奏楽部は、曲目「Rail Way」を管9人、パーカッション1人の構成で演奏しました。

メンバーが少ないながら、よくここまで調整し、大きな会場にも関わらず物怖じせず調和のとれた見事な演奏ができたものだと感心しました。

鑑賞後、県吹奏楽連盟会長の山田先生に感想をお聞きしたところ「G高は、みんなが一緒になって(音やリズムを)合わせようとしている。それが演奏に現れていて、とても良い気持ちになれました」とありました。

顧問の上門夏生先生は今年3月まで大学生で、タクトを振る姿は高校生と見紛うようなお姿でしたが、見事大役を果たしてくれました。教員は新卒であろうが、ベテランであろうが生徒に向き合う姿勢にその真価が現れるものです。上門先生お疲れ様でした。それと、嬉しい発見もありました。生徒の引率と楽器の運搬を買って出た理科(生物)の棚原敏先生は、何と現役のプレイヤー(チューバ)というではありませんか。今度ぜひ演奏を披露して欲しいものです。

6月14日、15日、財団法人おきなわ女性財団(ていりる)で、第63回NHK杯高校放送コンテストが開催され、本校から①アナウンス部門 安福太郎君(2-1) 仲田結香さん(1-4) 宮城さくらさん(1-4) 新垣裕也君(2-4)、②朗読部門 當山陸君(2-4) 真壁葵さん(2-2) 知念瞳さん(1-1) 知花夢乃さん(1-4)、③ラジオドキュメント 嘉陽千里さん(2-3)、④ラジオドラマ 真壁葵さん(2-2)、⑤テレビドラマ 大嶺旬貴君(2-1)、がそれぞれエントリーし、朗読部門で當山陸君(2-4)が参加者71名中、惜しくも賞は逃しましたが決勝戦の8名に残りました。

顧問の真壁義隆先生(数学)は、初めての放送部顧問だそうです。初コンクール参加の感想として「G高をはじめ各校のレベルの高さに驚いた。生徒達は、この大会のために毎日遅くまで活動し、大会前の週末はセミナーハウスでの合宿も敢行した。納得がいくまで練り直し、作品を作り上げた生徒にね

ぎらいの言葉をかけたいと思う」と、さらに「1、2年生が多いチームなので今後に大いに期待できる」と次の抱負を語っていました。

8月には、広島県で行われる全国高等学校総合文化祭に安福太郎君(2-1)と森屋彩さん(2-2)が県代表として出場することが決定しています。

文化系の活動は、作品制作等をとおして常に自分と向き合い、失敗や悔しさを重ねて己を知り、納得した作品等ができたときの喜びと鑑賞により精神性を高め、さらに新しい様々な世界を知ることができる活動です。G高文化系部活生徒は、静かに内に秘めた炎を燃やしています。頑張れ！！

